2022 年度 環境経営 Report

（対象期間：2021年12月1日 ～ 2022年11月30日）

<更新審査報告>

発行日 ：2023年 2月 1日

株式会社エスプールロジスティクス

S-POOL Logistics

－ 目次 －

	ページ
1．組織の概要	2
2．環境経営方針・理念・行動指針	3
3．環境経営組織図及び役割・責任・権限表	4
4．主な環境負荷の実績・環境経営目標及びその実績	5
5．環境経営計画の取組結果とその評価	7
6．環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果	9
7．2022年度結果と2023度の目標	9
8．代表者による全体の評価と見直し指示	10

たいせつにします プライバシー
■ 登録番号 第１０８６０３９０（０８）号

再エネ100宣言
RE Action

１．組織の概要

（１）名称及び代表者

◆株式会社エスプールロジスティクス（エスプール100%出資）

社長執行役員　小林　正憲

（２）所在地

◆本社　　〒101-0021 東京都千代田区外神田1-18-13 秋葉原ダイビル6階

■品川センター　　〒108-0075 東京都港区港南 5-4-36

■つくばセンター　　〒305-0861 茨城県つくば市矢田部6822-1

■市川センター　　〒272-0127 千葉県市川市塩浜２丁目

■浦安センター　　〒279-0032 千葉県浦安市千鳥１０－２　王子物流内２Ｆ

【従業員数】 226人（1月末）

（３）対象範囲

■品川センター（LOGISTICS　Laboratory Shinagawa）

https://www.spool.co.jp/service/logi/company/

坪数：2,300坪（1F～5F）

従業員数：110人

■つくばセンター

坪数：1,100坪

従業員数：54人

（４）段階的認証について

2021年8月　品川センター取得

2022年8月　つくばセンター拡大認証取得

2024年8月　本社、市川センター、浦安センター拡大予定

（５）環境管理責任者および担当者連絡先

責任者：　事務局長　　渡部　和弘　TEL　03-6773-4680

担当者：　品川センター長　滝口　敬太　　TEL　03-6773-4680

つくばセンター長　沖谷　飛翔　TEL　029-839-2671

（６）事業規模：資本金：３０百万円

（７）事業年度：12月1日　～　11月30日

（８）事業内容　◆ECフルフィルメントサービス　◆越境物流代行

◆自社物流構築支援/荷役請負

［物流拠点］　品川、つくば、市川、浦安

［取扱実績］　取引企業　200社　出荷件数　50万件/月　（2022年12月現在）

化粧品　健康食品　アパレル　雑貨

サプリ　書籍　加工食品　酒・飲料　etc

― 環境経営方針 ―

株式会社エスプールロジスティクスは、以下のエスプールグループの環境方針を自社の方針として、社会および経済の発展に貢献することを事業活動として推進します。

＜環境理念＞

私たち株式会社エスプールロジスティクスは、エスプールグループの理念「アウトソーシングの力で企業変革を支援し、社会課題を解決する」を推進し、雇用創出に関した目標を中心に、事業基盤を支えるダイバーシティ＆インクルージョンに継続して取り組んでいきます。そのためにSDGsが対象としている地球環境と当社事業活動との調和を図り、環境に配慮した企業経営を推進していきます。

＜環境方針・行動指針＞

【法令遵守】

1.環境に関する法規制を遵守します。

【環境負荷低減】

2.環境改善目標を定め、継続的な環境改善活動を実践します。

3.省エネ活動による電力使用量の削減を実践します。

4.環境に配慮した容器・包装の導入により、環境に与える負荷の低減に努めます。

5.水使用量の維持管理を行い節水に努めます。

6.省資源による仕事に努め廃棄物の発生量を削減します。

【環境マインドの醸成】

7. 継続的に従業員に対する環境教育を計画的に実施することで、環境保全に対する意識向上に努めます。

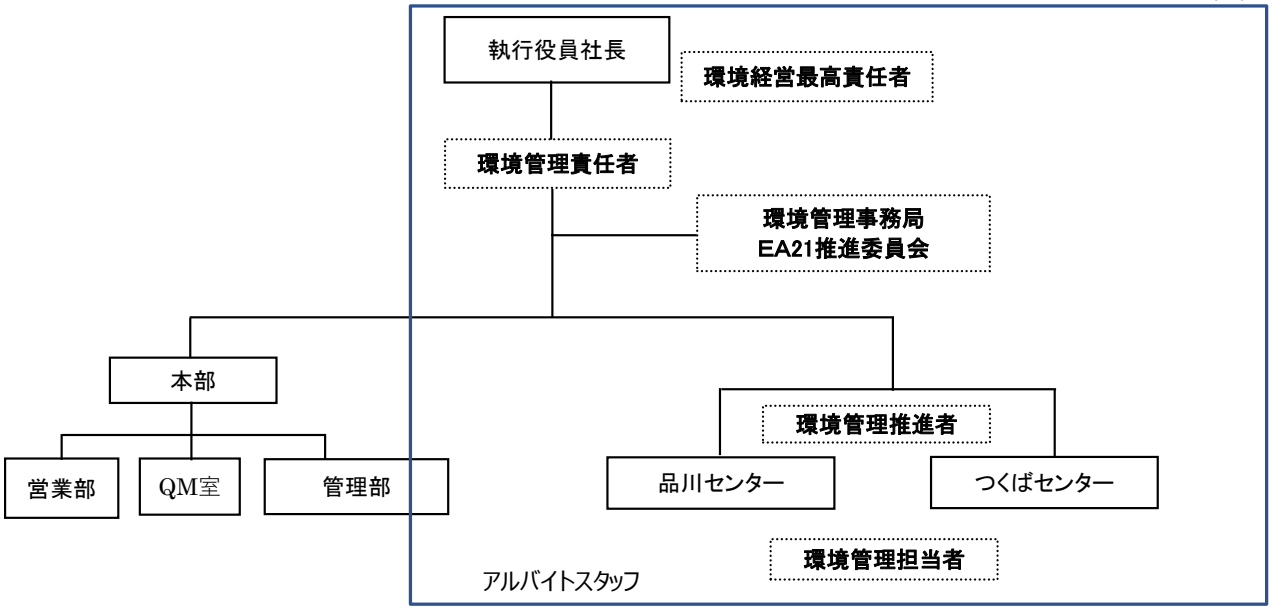
8. 国、地方自治体などが定める環境に関する規則法令等を遵守します。

9.社内要所に環境経営方針を掲示し、全社員にEA21環境経営システムを周知徹底します。

2020年12月1日　制定
株式会社エスプールロジスティクス
社長執行役員　　小林　正泰

3．実施体制・組織図・役割・権限

作成者：　渡部　和弘
作成年月日：2023/2/1



名称	役割・責任・権限
社長 （小林　正憲）	●環境経営に関する統括責任 ●環境管理責任者を任命 ●経営における課題とチャンスを明確にする。（要求事項2） ●環境方針を定め、誓約する。（要求事項3） ●環境経営を実践する為の必要十分な実施体制の構築　（要求事項7） ●実施体制において各自の役割り、責任、権限を定め、従業員に周知する（要求事項7） ●実施及び管理に必要な経営資源（人、もの、資金、情報等）を用意する（要求事項7） ●代表者による全体の評価と見直し実施（要求事項14）
環境管理 責任者 （渡部　和弘）	●環境管理システムを構築、実施、管理 ●環境への負荷及び取組の自己チェックの確認、承認 ●法規制等の遵守状況をチェック ●環境方針の案作成及び環境目標の設定 ●環境活動実施計画および実績の確認・集計・評価 ●問題点の是正、予防処置に対する指示と改善や見直しに必要な処置 ●環境活動の取組結果の代表者への報告 ●環境関連の外部コミュニケーションの窓口
環境推進 責任者 （滝口　敬太） （沖谷　飛翔）	●環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ●環境への負荷及び取組の自己チェックを作成し、事務局を通じ環境管理責任者へ報告 ●「環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況チェックリスト」を作成し、管理責任者へ報告 ●環境活動計画並びに運用手順書を作成し、実施達成状況を集計し、環境管理責任者へ報告 ●従業員に対する教育訓練の実施 ●特定された緊急事態に対する項目の手順書作成、テスト・訓練・記録
ＥＡ21推進委員会 （本部） （渡部/鈴木/加藤）	●環境経営システム運営のすべての事務 ●文書及び記録の管理保管 ●環境活動の審議及び実績の確認・評価
内部監査チーム （鈴木　里枝）	●環境経営システム運営に関する内部監査の計画、実施、報告（管理部）
環境管理 担当者 （フロア選任）	●自部門における環境管理システムの実施 ●自部門の従業員に対する環境訓練の実施 ●自部門に関連する環境目標および環境活動計画の実施、達成状況の報告 ●自部門に必要な環境関連手順書の作成、運用管理 ●自部門に必要な緊急事態への対応のための手順書作成、テスト、訓練、記録 ●自部門の問題点の発見、是正、予防措置
全従業員	●環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚（要求事項3,6） ●決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

４．主な環境負荷の実績

＜基準年度＞

■全社センター合算（品川＋つくば）　2019.12-2020.11　2020.12-2021.11　2021.12-2022.11

項目	単位	2020年度	2021年度	2022年度
電気使用量	kWh	753,019	795,176	767,680
二酸化炭素排出量	kg-CO2	362,816	386,160	362,324

■品川センター

項目		単位	2020年度	2021年度	2022年度
電気使用量		kWh	579,906	636,682	613,298
二酸化炭素排出量		kg-CO2	286,474	314,521	292,543
排出係数		kg-CO2/kWh	0.494	0.494	0.477
廃棄物排出量	①一般廃棄物排出量（可燃）	kg	データ無し	1,415	2,090
	②　〃　（紙･段ボール）	kg	↑	82,497	138,330
	処理費用	円	↑	262,185	241,120
	③産業廃棄物排出量	kg	↑	36,915	37,910
	処理費用	円	↑	3,845,312	3,140,456
	総排出量(①+②+③)	kg	↑	120,827	178,330
	処理費用合計	円	↑	4,107,497	3,381,576
水使用量		㎥	1,668	1,828	1,810

■環境目標･実績

項目名	単位	2021年度	2022年度		2023年度		評価	
		2020.12 -2021.11	2021.12-2022.11		2022.12-2023.11			
		基準値	目標	実績	目標	実績（減少）		
		基準年	基準年度比 1％減	基準年度比 削減率	基準年度比 2％減	基準年度比 削減率		
電気使用量 ※1	kWh	636,682	630,315	613,298 (96.3%) 3.7%削減	623,948	データ 採取継続	○	センターフロアにエアコン導入した2021年度を基準年度に再設定して前期電気使用量を比較。目標達成
CO2排出量	kg-CO2	314,521	311,376	292,543 (93.0%) 7.0%削減	308,231	データ 採取継続	○	上記に伴い、CO2排出量も低減、また使用電力CO2係数も低減効果あり

項目名	単位	2021年度	2022年度		2023年度		評価	
		2020.12 -2021.11	2021.12-2022.11		2022.12-2023.11			
		基準値	目標	実績	目標	目標		
		基準年	基準年度比 1％減	基準年度比 削減率	基準年度比 2％減	基準年度比 削減率		
一般廃棄物 排出量･金額 ※2 (①+②)	kg	83,912	83,073	140,420 167% 67%増加	82,234	データ 採取継続	○	認証活動開始年次を基準年として再設定、排出量増加も再生分別の徹底を継続、廃棄費用金額を大きく低減
	円	262,185	259,563	241,120 (91.9)% 8.1削減	256,941	データ 採取継続		
水道水使用量	㎥	1828	1,810	1810 99% 1%	1,791	データ 採取継続	○	生産量増加によるパート･アルバイトの増員に伴う使用量への影響と思われる

評価は、実績値/目標値の%で表す。削減目標の場合、100%以下なら「目標達成：○」、以上の場合は「未達成：×」とする。

※1　CO2排出係数　0.477kg-CO2/kWh：2021年　ENEOS㈱公表

※2　一般廃棄物については、可燃ごみ１袋＝5kg

作成日：2023年2月1日

EA21推進委員会事務局　渡部

＜基準年度＞

■つくばセンター　2019.12-2020.11　2020.12-2021.11　2021.12-2022.11

項目		単位	2020年度	2021年度	2022年度
電気使用量		kWh	173,113	158,494	154,382
二酸化炭素排出量		kg-CO2	76,343	71,639	69,781
排出係数		kg-CO2/kWh	0.441	0.452	0.452
廃棄物排出量	①一般廃棄物排出量（可燃）	kg	データ無し	4,860	2,780
	②　〃　（紙･段ボール）	kg	データ無し	13,910	39,110
	処理費用	円	↑	291,220	158,373
	③産業廃棄物排出量	kg	↑	40	7,930
	処理費用	円	↑	780	783,873
	総排出量(①+②+③)	kg	↑	18,810	49,820
	処理費用合計	円	↑	292,000	942,246
水使用量		㎥	-	-	-

■環境目標･実績

項目名	単位	2021年度	2022年度		2023年度		評価	
		2020.12 -2021.11	2021.12-2022.11		2022.12-2023.11			
		基準値	目標	実績	目標	実績（減少）		
		基準年	基準年度比 1％減	基準年度比 削減率	基準年度比 2％減	基準年度比 削減率		
電気使用量 ※1	kWh	158,494	156,909	154,382 (97.4%) 2.6%削減	155,324	データ 採取継続	○	環境負荷低減節電活動を前年度より開始しており、その結果、目標値を上回ることができた
CO2排出量	kg-CO2	71,639	70,923	69,781 (97.4%) 2.6%削減	70,207	データ 採取継続	○	上記に伴い、CO2排出量も低減、また使用電力CO2係数も低減効果あり

項目名	単位	2021年度	2022年度		2023年度		評価	
		2020.12 -2021.11	2021.12-2022.11		2022.12-2023.11			
		基準値	目標	実績	目標	目標		
		基準年	基準年度比 1％減	基準年度比 削減率	基準年度比 2％減	基準年度比 削減率		
一般廃棄物 排出量･金額 ※2 (①+②)	kg	18,770	18,582	41,890 (223%) 123%増加	18,395	データ 採取継続	○	認証活動開始年次を基準年として再設定、排出量増加も再生分別の徹底を継続、廃棄費用金額を大きく低減
	円	291,220	288,308	158,373 (54.4%) 45.5%削減	285,396	データ 採取継続		
水道水使用量	㎥	※賃料に含まれており、数値の把握はなし						

評価は、実績値/目標値の%で表す。削減目標の場合、100%以下なら「目標達成：○」、以上の場合は「未達成：×」とする。

※1　CO2排出係数　0.452kg-CO2/kWh：2021年　東京エナジーパートナー公表

※2　一般廃棄物については、可燃ごみ１袋＝5kg

作成日：2023年2月1日

EA21推進委員会事務局　渡部

５．環境経営計画の取組結果とその評価

活動評価：　◎よくできた　○まずまずできた　▲あまりできなかった　×全くできなかった

＜品川センター＞

■電力

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・スイッチの場所を明示（不要電気の特定）	◎	毎月の推進委員による５Ｓチェックを継続。チェックリストに基づき、休憩時間および使用していないエリアの間引き消灯、終業後の不使用PCモニタの電源OFFを正確に把握するため使用終了の看板設置、消し忘れ防止のKAIZEN対策をとった。またエアコンの電力消費量が大きいことを想定し定期的に簡易点検チェックを実施しているが、設置前面に送風口を塞ぎ熱効率を下げる事例が散見され、指導を継続している。
・不要照明の消灯（休憩時間での間引き）	◎	
・空調温度の適正化（温度管理シート作成）	◎	
・最終退出チェックリスト（電灯消し忘れ）	○	
・エアコンフィルターの清掃（簡易点検）	○	

■一般廃棄物

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・排出業者の分別義務を徹底	◎	廃棄分別活動も2年目、従業員へ浸透しはじめた。新規アルバイト要員が入職した場合でも分別に関する導入レクチャーから開始、現場スタッフの方からでも指導が可能な状況が生まれつつある。「可燃ごみ」と再生可能な「資源ごみ」分別の過去是正指導一覧にまとめ閲覧ファイルとして共有する掲示板を作成し教育を実施している。
・有価古紙回収への運用ルール化	◎	
・リサイクル化率報告により、見える化の工夫	◎	
・「KAIZEN」スペースの設置（情報共有）	◎	

■産業廃棄物

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・劣化素材の５Ｓの徹底（鉄ネス、廃パレット）	◎	今年度は、長年蓄積された産業廃棄物を全フロアにて取りまとめ、3ヵ月をかけて全排出を行い、不要物の整理と共に空き有効スペースを確保することができた。また、以降トラック手配スポット収集排出から毎週のルート回収運用として、買取り資源分別と共にコストダウンに貢献できた。エコアクション21の取組をさらに継続していく。
・リサイクルへの分別、コストを削減する	◎	
・庫内廃棄物の定期的排出	◎	
・使用後パレットの運用ルール化	◎	

■水道

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・器具のチェック（毎日の清掃時）	◎	日々の清掃時に器具およびセンサーの異常チェックを入れる。スタッフの増加に伴い、さらに節水喚起の掲示箇所を拡大し、継続していく。
・「節水」注意喚起ステッカーの貼付	◎	

■環境に配慮した製品・サービスへの取組

二酸化炭素の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・新規梱包資材関連の市場調査	○	既存品から「環境配慮型」代替資材を検討するも、原料高のコストアップとなる割高感はまだ否めない。継続してFSC認証、再生紙利用など顧客ニーズとマッチングするよう進める。また、スタッフ勤怠管理においてペーパレス化の試行開始した。
・荷主向け環境配慮型資材の提案	▲	
・アルバイト勤怠紙使用の削減（アプリ導入へ）	○	

５．環境経営計画の取組結果とその評価

活動評価：　◎よくできた　○まずまずできた　▲あまりできなかった　×全くできなかった

＜つくばセンター＞

■電力

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・スイッチの場所を明示（不要電気の特定）	▲	空調に関しては冷暖房の設定温度を事前に取り決め管理、運用。使用時前に温度計を確認しつつ使用か有無を判断とした。 照明についても不要時は即消灯、時間・曜日によってはエリア単位のみ点灯させ不要エリアは消灯とした。 エアコンのフィルターについては、施設主にて管理となり、清掃や点検を実施済み。
・不要照明の消灯（休憩時間での間引き）	◎	
・空調温度の適正化（温度管理シート作成）	◎	
・最終退出チェックリスト（電灯消し忘れ）	◎	
・エアコンフィルターの清掃（簡易点検）	○	

■一般廃棄物

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・排出業者の分別義務を徹底	◎	ゴミの分別、排出業者は昨年から継続して法令厳守の業者にて運用管理。 リサイクル化率も向上はしており、環境担当メンバー内での確認が出来る仕組みができたが従業員全体への周知には至らず。また、現場KAIZEN対応についても現場完結で全体発信が出来ていない部分は改善必要。
・有価古紙回収への運用ルール化	○	
・リサイクル化率報告により、見える化の工夫	○	
・「KAIZEN」スペースの設置（情報共有）	▲	

■産業廃棄物

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・劣化素材の５Sの徹底（鉄ネス、廃パレット）	◎	産廃については年2回予めスケジュール及び予算組を設定し定期的に排出する仕組みを作るも現場繁忙にて当初のスケジュール感で対応出来ず遅延が発生。 また、現場煩雑によりパレット置き場が所定の場所に設定出来ず煩雑化してしまった場面有り。 内部監査後に再配置を徹底。
・リサイクルへの分別、コストを削減する	◎	
・庫内廃棄物の定期的排出	○	
・使用後パレットの運用ルール化	▲	

■水道

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・器具のチェック（毎日の清掃時）	○	トイレなど水回りの清掃当番を設定し都度確認を実施。節水については注意喚起ステッカーの更新を行い形骸化とならないよう更新を実施。
・「節水」注意喚起ステッカーの貼付	◎	

■環境に配慮した製品・サービスへの取組

二酸化炭素の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・新規梱包資材関連の市場調査	▲	物価上昇もふくめ新資材の調査は継続して実施するも大きな取り組み、変化は無し。 上記のため新資材の提案もゼロとなる。 また、アプリ導入については今後品川センターに続いての実施開始。
・荷主向け環境配慮型資材の提案	×	
・アルバイト勤怠紙使用の削減（アプリ導入へ）	×	

6．環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

＜品川センター・つくばセンター共通＞

法的義務を受ける主な環境関連法規は次の通りです。

	品川	つくば	
適用される法規制	●	●	適用される事項（施設・物質・事業活動）
廃棄物処理法	●	●	産業廃棄物（廃プラ、鉄くず等）委託基準、保管基準、電子マニフェスト保管
消防法（危険物）	●	該当なし	危険物の保管（第4類アルコール類）※
フロン排出抑制法	●	該当なし	業務用空調機（簡易点検・定期点検を実施する）

※保管量を1ヵ月ごとに棚卸し調査し、指定数量以下であることを管理している。

環境関連法規制などの遵守状況の評価結果、環境関連法規制などは遵守されていました。
当社が該当する上記遵守事項について、抵触する旨の指摘及び訴訟は、関係機関からありませんでした。
また、近隣などの外部苦情もありませんでした。

7．2022年度結果と2023度の目標

2022年度　実績まとめ

（１）エコアクション２１拡大認証・登録取得（2022/8/5）

➡ つくばセンター（拡大）、品川センター（継続）適合

＜環境配慮・負荷低減活動＞

（２）廃棄分別運用によるコストダウン化

品川　①資源ごみへの詳細分別による資源化・高リサイクル化率 → 98.6%（Ave./年）

品川　②古紙・雑古紙のルート回収運用追加 ➡ 各フロアスペース圧迫回避

品川　③分別ごみ「きれいな紙」、「ダンボール」 ➡ 買取回収へ

		22期	23期	前期比	
品川	廃棄費用（年）	¥4,107,497	¥3,381,576	¥-725,921	・削減
つくば	廃棄費用（月）	≒￥30,000	≒￥12,000	※22期7月より新運用開始	

（３）電気使用量の削減（CO2削減）

		22期	23期	前期比	増減（%）	
品川	kWh（年）	636,682	613,298	-23,384	-3.7	96.3%
	kg-CO2	314,521	292,543	-21,978		
つくば	kWh（年）	158,494	154,382	-4,112	-2.6	97.4%
	kg-CO2	71,639	69,781	-1,858		

（４）５S巡視の徹底

➡ 安全衛生委員会との連動、過去労災履歴（2016～）を集約し、未然防止重点項目とした（7月推進委員会）

➡ 毎月定期定着化、指摘事項ポイント制による見える化指標策定

（５）KAIZEN活動

➡ 現場作業者から問題の改善を図るためにさまざまな知恵を出し合い、解決策をボトムアップで考えていく環境を設定

（６）教育・訓練

➡ エコアクション21推進委員会にて毎月１～２事項を情報提供、学習の場ともした（実績一覧表保管）

（７）是正指導（廃棄分別について）

➡ 新たな法令としての「排出業者の分別義務」の遵守強化（実績一覧表保管）

2023年度　環境方針

エスプールグループは、地球市民の一員として、グローバルな課題である環境問題に対して重要な課題であると認識し、
持続可能な社会を目指して責任ある行動および取り組みを行っております。持続的成長の実現に向けて、
SDGsが対象としている地球環境と当社事業活動との調和を図り、環境に配慮した企業経営を推進していきます。

S-POOL　CSRサイト参照　https://www.spool.co.jp/csr/environment.html#content_01

S-POOL　サスティナビリティ　サイト参照　https://www.spool.co.jp/sustainability/policy.html

S-POOL-Logi　サイト参照　https://www.spool.co.jp/service/logi/

2023年度の事業方針（特記）

・エコアクション21を中心とした、「環境配慮型センター運営の実施」

重点課題

・月1回のエコアクション推進委員会を継続実施（使用エネルギーの把握、センター5Sの推進）し、SLGの文化とする。

・クオリティマネジメント（QM)室の設立と、センター品質、収益率の安定化

環境経営方針
・グローバル化推進
・働きやすい環境の創生
・省資源、省エネの推進
・顧客の環境負荷削減に貢献する
・地域の活性化貢献

コスト削減
⇒ エネルギー使用量の削減
⇒ 廃棄物の削減
⇒ 不良品削減
⇒ 梱包材の効率的使用
⇒ 勤務時間の適正化（働き方改革）

（二酸化炭素排出量低減）

環境経営目標・活動計画
・電気使用量削減２％
・廃棄物の削減２％
・水使用量削減２％
・環境配慮製品の導入
・工程の見直し、変更
・社内組織の再構築、人材交流
・システム管理の強化

2023年度の施策（特記）
・非化石証明書取得
・リサイクル化率98～99%継続
・ペーパーレスPJ施行
・工程短縮生産性の向上
・環境負荷低減素材の検討
・循環型再生品への試行
・環境配慮型新センターへの取組

８．代表者による全体の評価と見直し指示

昨年8月に当社基幹センターの品川センターに続き、第2センターであるつくばセンターの拡大認証を取得しました。エスプールグループ全体としても、サスティナブルな環境・行動方針を強く打ち出し、ESG経営としての取り組みを加速的に計画し進めています。当社もカーボンフリーロジスティクスとして「環境配慮型物流センター運営の実施」を今期事業の重点方針として定め、今後開設する新センターの主軸活動としても、エコアクション21推進委員会の継続的実施とPDCA報告・運用が最重要事項となっています。

中でも環境負荷低を目的とした下記2点の取り組み関しては、一定の活動成果があったと評価します。

①電気使用量の低減

②廃棄物の高リサイクル化ならびに付随する廃棄費用コストダウン

その成功要因は、エコアクション推進委員会を下記3点を目的として設定できていることが大きいと考えております。

①環境担当者への定期的な環境教育の場

②毎月開催する推進委員会での環境問題に関するビデオ視聴による個々の知見を深堀り

③他社のエコ活動および類似取組み事案を参考共有する場

これらを更に浸透させるには、全従業員への教育活動が大きな鍵となり、新たに今期設置した「クオリティマネジメント室」を軸に環境教育基盤を形成していきます。環境負荷低減策として、2点が大きなポイントだと考えています。

①増加しているアルバイトスタッフ労務管理に対して携帯アプリを用いたペーパーレス化

②発行伝票作業工数の削減を目的としたシステム的な工程改善

これらを含め「再エネ100宣言Re Action」活動としても使用電力部分にはカーボンオフセットを継続していきます。これら方針を従業員一丸となって環境「KAIZEN」ムリ・ムダ・ムラの排除を積極的に進め、環境経営の源として上記を実行、今後の企業価値がさらに向上していくように継続した取り組みを進めていきましょう。

環境経営方針	☑ 変更なし	□ 変更有
環境経営目標・計画	□ 変更なし	☑ 変更有
実施体制	□ 変更なし	☑ 変更有

社長執行役員　小林 正憲